

郷土地理部の活動概要

1 活動日・活動時間

原則として毎週火曜日放課後に活動しています。ポスター発表、巡検準備などの時期は、それ以外の日時にも活動します。

校外活動(巡検)は、土日祝日または長期休業(夏休み、冬休み、春休み)を中心に行います。

研究課題は個人によって違いますので、個人の都合に合わせて活動することができます。

2 活動場所

校内での活動は、第二情報室を中心に行っています。

3 活動内容

(1)巡検(野外調査・フィールドワーク)

県内・県外で、地域を決めて巡検調査を行います。その内容は、後のページで写真紹介しています。

また、5月には新入部員歓迎のため、松阪市内を歩いて巡検します。

(2)日本地理学会学術大会・高校生ポスターセッション参加

日本地理学会では、年間2回行われる学会(学術大会)の際に、全国の高校生が参加できる「高校生ポスターセッション」を行っています。日頃の研究をポスターにまとめ応募します。選考の結果、採択されると大会会場またはオンラインで発表できます。

参加ポスターのレベルは非常に高く、このポスターセッションで発表できるよう、日頃の研究内容を高めています。

郷土地理部では、過去4年間の大会で、合計12本のポスターが採択され、そのうち3本が「理事長賞」(会長賞に次ぐ賞)を受賞しました。

高校生ポスターセッションの詳しい内容は、後のページで写真紹介しています。

(3)その他

①全国発表会への参加

・全国高等学校総合文化祭で郷土研究部門が開催される年度は、三重県代表として参加することを目指しています。2024年の岐阜大会には三重県代表として参加しました。

・各種の発表会に参加

2024年度は玉城町立下外城田小学校、三重県県土整備部の発表会に参加しました。

日本地理学会学術大会・高校生ポスターセッションでの発表

【2022 年秋季学術大会(香川大学)】

高校生ポスターセッションはオンラインで行われました。松阪高校からは、3作品が採択され、そのうち、3年生本橋昂さんを主発表者とする作品が、理事長賞(会長賞に次ぐ賞)に選ばれました。

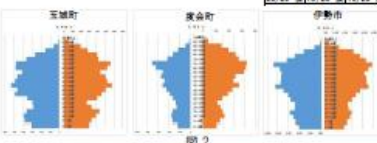
〔日本地理学会理事長賞受賞ポスター〕

地方都市郊外に位置し特殊な人口動態を示す地方農村地域の現状と今後の課題

三重県立松阪高等学校 郷土地理部 本橋 昂 石田 佳奈美 百田 幸太郎

1.研究目的・玉城町の概況等

三重県度会郡玉城町は、三重県中部の中心都市である伊勢市・松原市の中に(伊勢市には隣接)位置する農村地域である。同町は、人口減少が立派な三重県中部にありながら、2015 年まで人口増加が続いてきた。その後、急激な減少に転じたものの、2019 年時点でも県下の社会増が見られ、県下の年少人口割合は三重県全市町村で2番目に多いが、特異な人口動態を示している。図2は、同町と近隣の度会町・伊勢市の人口ピラミッド(図2年)である。3市町村を比較すると、玉城町は全県年齢人口および最年少年齢層の人口比率が、度会町・伊勢市に比べて高いことが確認できる。このような人口動態の特殊性について、フィールドワーク、国勢調査・国勢調査等データの分析を通じて、その要因や、現在人口減少の局面に陥っている同町の、今後の復興政策の方向性を検討する。



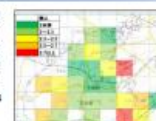
2.玉城町の地域区分の考え方

玉城町は1955-56年に田丸町と近藤3村が合併し誕生した。合併前田丸町の区分が4つの小学校区として残っている。田丸町は、江戸時代には田丸町の城下町で、明治22年に郡に附属施行されて、歴史的には都市的機能を備え一定の中心性を持った地域であったと考えられる。本研究では、田丸町の城下町と周辺地域(おおむね図2の赤丸で囲まれた区域)を玉城町中心地域として捉えることとする。



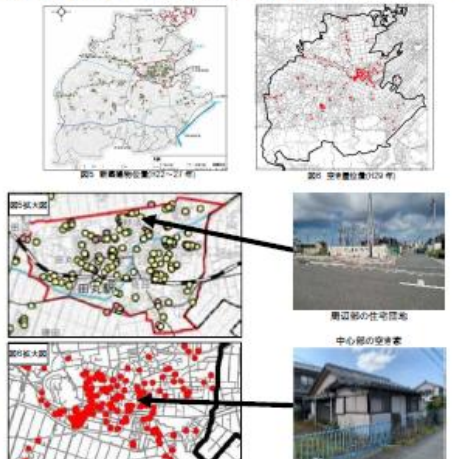
3.玉城町中心地域の人口動態

玉城町の年齢人口と世帯数、世帯構成人数のメッシュマップを作成した。図4から、町中心地域は、他の地域に比べ、世帯構成人数が小さい傾向が見られる。これはアパート等の増加により単身世帯が多い事、高齢化の進展により高齢者単身世帯が多い事によると考えられる。このことから、町中心部が周辺地域と異なる特色を持つ地域である事が推察できる。



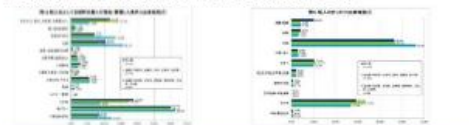
4.空洞化と市街地拡大が進展する中心地域

玉城町は、社会的人口増加が顕著で、住居を中心とした新築建物の件数も多く、特に町内中心部の田丸地区に集中する傾向が見られる。(図5)一方、空き家も増加傾向にあり、町田丸地区からの空き家取り壊しでは、今後の大きな課題と捉えていることが分かった。空き家についても、同様に中心部田丸地区に集中する傾向が見られる。(図6)図7・図8は、空き家と新築建物の分布を、中心地域に限定して拡大表示したものである。この図を基に現地調査を行った結果、半壁500m程度の狭い地域の中で、田丸町を中心に空き家や空き地が目立ち、空洞化の進展が推察される田丸町下町地域と、田丸町と度会町の境界部で小規模の住宅団地の造成が目立つ地域に二分される状況が確認できた。また町役場跡地等からの空き家取り壊しから、H29 年の水害により洪水被害の大きかった田丸町下町地域で、図6以上に、空き家や空き地増加していることを知り、現地調査でも確認できた。



5.玉城町への転入動機分析

玉城町調査のアンケートによれば、近隣市からの転入者は生活コストの低さや子育て等、近隣市からは交通の利便性、結婚、仕事等主な転入動機としている。調査の関には顕著な違いがあり、玉城町は伊勢市郊外の性格と、度会郡内一定の中心性を持った地域という性格を併せ持つことが想定できる。



6.考察 ～今後の地域振興施策に関わって～

玉城町の調査人口比率は、国勢調査より2000 年に 97.7、2015 年には 99.8 と上昇しており、三重県内の町では21位である。この間、玉城町では農林漁業・工業等の工場跡地による農用拡大が進んでおり、いけば農林漁業の人口増加が推察されたと考えられる。このことより、同町は単に伊勢市の郊外地域だけではない中心性を持った地域として発展してきたと考えられる。同町の中心地域の田丸地区は、公共施設など集中するだけでなく、緑・自然環境に恵まれた田丸地区が住民の生活に貢献できる余地に恵まれ、域内に町内唯一の中学校が立地している点も、町民が通学した経験を持つなど、教育的かつ精神的な中心地域となっている。同町は、伊勢市や松原市郊外と同等な地域ではなく、一定の中心性を持った農村地域を維持し、継続発展して発展していると考えられる。

また同町の新たな小規模の住宅団地の造成は町中心地域の縁取り部を中心に進行しており、一方、中心地域の中の田丸町下町では、H29 年の水害被害地域を中心に空き家・空き地が増加するなど、空洞化が進行しつつある。この状況は、半壁500m程度の狭い地域の範囲内で起こっており、人口増と空洞化の対立を一体的に行なうことが可能ではないかと考える。具体的には、田丸町下の空き家・空き地を、農産物加工施設等と見直し、周辺の歴史的景観とマッチした高級感のあるリノベーション・立て替え等を行う、農産物加工施設等を誘致するなど、一層のジェントリフィケーションを行い、町民の生活環境に貢献してはどうか。町中心部の機能性をより高める、玉城町全体のコンパクト化を促進することを課題とした。



参考文献

玉城町空家等対策計画、平成 28 年都市計画基本調査、玉城町人口ビジョン、玉城町まち・ひと・しごと創生に関するアンケート調査、国土地理院 電子地形図

【2023年秋季学術大会(関西大学)】

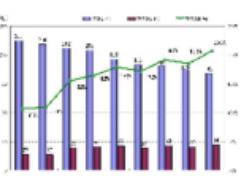
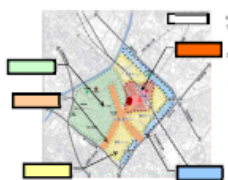
高校生ポスターセッションはオンラインで行われました。松阪高校からは、3作品が採択され、そのうち、2年生藤田葵子さんの作品が、理事長賞(会長賞に次ぐ賞)に選ばれました。

【日本地理学会理事長賞受賞ポスター】

松阪市中心商店街の変化と今後の方向性についてー時間・空間の二つの視点からー 三重県立松阪高等学校 2年・藤田葵子

【研究目的】松阪市の中心商業地域(松阪駅前商業地区)の大部分を構成する各商店街について、1980年頃から現在に至る変化の特色を明らかにする。また、松阪駅・商業地区・観光地区の位置関係が、商店街の性格に与える影響を分析し、併せて、商店街の今後の方向性について考察する。

【研究地域の概要・地域選定理由】三重県松阪市は面積 62348 km^2 、人口 159073 人、人口県内順位 4 位(2020 年度国勢調査)で三重県中南部に位置し、三重県に複数ある地方中心都市の 1 つである。松阪市の中心商店街である松阪駅前商店街は全国的に地方都市で課題となっている中心商店街の衰退現象がみられる。なお、今回調査では松阪市によるデータから図 1 にみられる中心市街地の中でも特にオレンジ色の部分を構成する 6 つの商店街を含めた範囲とした。



【調査・研究手法】国勢調査、自治体実施調査、松阪駅前商店街の 43 の店舗を対象としたアンケート調査(回答数 26、回収率約 58%)、関係自治体および関係団体聞き取り調査、フィールドワークによりデータを取得し分析を行った。

【研究結果 1】松阪市への聞き取り調査から、以下のような衰退の原因があげられる。

- (1) 人口減少・生産年齢人口の都市部流出により一部店舗の客層が高齢化・減少していった。
- (2) ライフスタイルの変化・交通手段の発達により大型商業施設に自家用車で移動する家庭が主に地方で増加したことや、EC サイトの発達により買い物をも自宅ですませる機会が増加したこと、生活必需品を揃える市場としての役割が低下し、集客力が低下した。
- (3) 小売店舗数の減少…(1)(2)が原因で利用者が減少したことにより経営維持が困難になった店舗が店をたたむケースや収入が不安定であることを懸念し後継者を見つけない店舗がたたむケース等がみられる。

【研究結果 2】ベルタウン振興組合への聞き取り調査から、以下のような衰退の原因が挙げられる。

- (1) 客数の減少…中心商店街、中心市街地付近に在住者が減少した。家族層の客数が減り、常連客がベルタウンでは多くみられる。
- (2) 商品の变化…以前は衣料品、食料品が一定の割合を占めたが、今ベルタウンは飲食店が全体の半分近くの割合を占める。(図 3 参照) ベルタウンが、農畜り品、買回り品を入手する一大商業地区としての役割を失ったことを示す。又飲食店でも居酒屋が約 70%を占めており、ベルタウンでは駅近であることを利用し、仕事帰りの人々を対象とした店舗が増加していき、結果的に昼間のシャッター街につながっていったと考えられる。日中営業を行わない店舗が多数を占める理由としては、テナントに出店する際の火災対策を日中まで行うことが困難であること、新型コロナウイルス流行により経営が難化したことが挙げられる。



- (3) 後継者の高齢化…起業しやすさや環境になったことで集客力が低下している駅前商店街で新しく店舗を構えようとする動きがあまり見られなくなった。

図3 松阪駅前ベルタウンの小売店舗の店舗の種類と割合

参考資料：松阪市商工会議所HP 松阪市特設サイト

【研究結果 3】駅前商店街の店舗への聞き取り調査から、以下のよう

- (1) 飲食店以外の生活雑貨・服屋等の日用品を販売する店舗やサービスは集客力が低下し、市街地の高齢化による衰退の影響を大きく受けている。
- (2) 飲食店は近年駅近であることを生かし、ベルタウンを中心とした中心市街地における観光地区を中心に発達しているが、日中営業しておらず、中心商店街の活性化につながっていない。

【研究結果 4】各商店街の小売店舗を対象としたアンケート調査から

- (1) 商店街全体の集客力の低下…2005 年以前から松阪駅前商店街に出店している小売店舗の 80%が売り上げの減少を感じている。(図 4 参照) また、飲食、ファッション以外の分野では顧客の高齢化を感じていることから、固定客で経営が成り立っており、新規の客数が少ないと推測できる。(図 5 参照) このため、近郊住民の高齢化の影響を大きく受ける店舗が多いと推測できる。なお、ファッション、飲食において顧客の年齢層の変化を感じていない店舗の割合が大きい理由としては、居酒屋や制服店、婦人服のみを販売する店舗等、店を利用する対象年齢を定めて経営している店舗が多いためと推測できる。
- (2) 松阪市に立ち寄る観光客の多くが利用する松阪駅前ベルタウンの品揃えの特徴…商店街全体と比べ、高い割合で観光客を意図した品揃えを行っている。(図 6 参照) このため、松阪駅から最も近い商店街である松阪駅前ベルタウンは他より観光客の利用が多く、観光客を対象とした品揃えに一定の需要があると推測できる。



図4 2005 年以前から営業している店の 2005 年以前の売り上げの比較

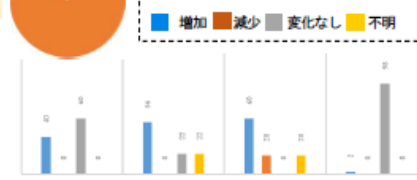


図5 店舗種類の顧客年齢層の変化



図6 観光客を意図した品揃えを行っているか
左：商店街全体 右：駅前ベルタウン

【考察と提案】商店街が「買回り品」中心の商店街としての性格を失い駅近である事を生かした飲食店が増加している事が分かった。又「農畜り品」も中心市街地の人口減少や高齢化に特化した対応が十分でない現状がある。更に松阪市に訪れた観光客と駅前商店街の関係については、駅に近い商店街で観光客を意図した対応を行う傾向が見られた。よって、商店街の活性化のため観光客と地域住民の 2 つを対象とした政策を提案したい。

観光客…松阪市の観光資源のみでは集客の魅力に欠けるため三重県における一大観光地である伊勢志摩地区から食事で訪れる観光客を主要なターゲットとし、松阪市のブランド品の中でも人気の松阪牛を全体的に押し出した政策を行う。

地域住民…年間利用客数がある程度確保できる仏壇、制服等の物を販売する商店街を中心に一定の地域住民が商店街に訪れる様にする。

なお、観光客を対象とする場合松阪駅直近の「松阪駅前ベルタウン」が重要な地区になる。その際、増加している飲食店(居酒屋)の多くが夕方からの営業のため昼間がシャッター街となってしまう点が大きな課題で、休日だけでもランチ営業が行われる様、何らかの対応が必要である。

【2024年春季学術大会(青山学院大学)】

今回の高校生ポスターセッションは、青山学院大学のポスター展示会場での発表形式で行われました。松阪高校からは、3作品が採択され、そのうち、2年生山中琴羽さん、中西柚名さん、1年生清水綾乃さんの作品が、理事長賞(会長賞に次ぐ賞)に3年連続選ばれました。また大会会場で行われた、ポスター発表者交流会に参加しました。

〔日本地理学会理事長賞受賞ポスター〕

三重県の自然災害伝承碑の分布と災害の特徴および地理院地図未掲載の災害伝承碑の紹介

発表者：三重県立松阪高等学校2年 山中琴羽 中西柚名 1年 清水綾乃

【研究概要】

地理院地図で三重県全域の自然災害伝承碑の分布を確認し、災害別に分類した。その結果、三重県は自然災害伝承碑の災害種類の多様性は、以下の通りであった。南部の熊野灘沿岸および志摩半島沿岸は地震による津波、北部伊勢湾岸は伊勢湾台風による高潮、内陸の伊賀地方は台風または豪雨による土砂災害・洪水、地震による地盤沈下が多くみられた。また、三重県中部は災害伝承碑がほとんどなく、空白地域となっている。そのうち宮川流域は、古来より洪水などの災害が多い地域で、堤防建設の際の人柱伝説「松井孫右衛門の碑」も知られている。そこで、宮川流域の災害の歴史の文献調査を行い、江戸時代、明治時代以降で、洪水の深刻な被害の罹歴ができた地域(玉城町豊田地区)の文献調査、フィールドワーク(現地調査、玉城町豊田および地元の方々の聞き取り調査)を行い、地理院地図に未掲載の災害伝承碑(彫刻・石碑)と治水遺構(水制堤)を確認した。その災害伝承碑と治水遺構に関する災害の概要を報告するとともに、地域の活性化に向けた、災害伝承碑と治水遺構の活用を提案する。

図1 三重県の災害伝承碑の分布

A: 桑名市・三重郡・四日市市 この地域の災害伝承碑は主に伊勢湾台風によるものである。1959年9月の伊勢湾台風は、台風災害として明治以降最多の死者行方不明者数5,098名に及び、犠牲者の8割は高潮の発生によって愛知・三重の2県に集中した。

B: 鳥羽市・志摩市・度会郡 この地域の災害伝承碑は主に昭和東海地震によるものである。この地震は1944年12月5日に南海地震が起き、伊賀から四国までの広範囲に死者数千人、倒壊家屋3万軒以上という被害が生じた。

C: 度会郡・尾鷲市・熊野市 この地域の災害伝承碑は主に昭和東海地震によるものである。この地震は1944年12月7日に起き、マグニチュード7.9を記録し、死者1,223人の被害が生じた。

D: 紀宝町 この災害伝承碑は、2011年9月台風12号の大雨によるものである。

E: 伊賀市 この地域の自然災害伝承碑は主に大津波によるもので、近畿大津波の山津波と安政の伊賀上野地震についての被害を記している。

F: 名張市 G: 伊勢市 H: 多気郡 F・Gは伊勢湾台風、Hは2004年の台風21号による土石流・地滑りによる災害である。

【玉城町豊田地区の災害伝承碑の紹介に至るまで】

地理院地図には宮川の災害伝承碑が見当たらない。しかしながら宮川は様々な災害の記録が残されているので、宮川流域はまだ知られていない伝承碑があるのではなかろうかと考え資料調査した。その際、偶然『玉城町史(市史)』の中に度会郡玉城町豊田地区(図1★印)の災害伝承碑を見つけた。その碑は明治18年7月の宮川の洪水の様子を記録したものであった。

【明治18年7月1日の災害】

図2は明治18年7月1日の天気図である。これを見ると、台風が中心が紀伊半島に勢力を保ち伊勢湾台風と似たコースで、来襲していることがわかる。夏の時期の台風なので雨量が多かったと予想される。この台風は大阪府淀川で大水害を引き起こしたほか、高知県、岐阜県、静岡県などで災害を引き起こしている。

【明治18年水害の全国的被害状況】

大阪府淀川付近には、明治18年の水害による自然災害伝承碑で地理院地図に登録されているものは3つある。その碑には、上から続く降雨により淀川の水位が上昇し、さらに暴風雨の影響で広範囲にわたって堤防が決壊、2万6千戸以上が流失、約290人が亡くなったということが記されている。図3はそのうち枚方市のもので、市の指定文化財である。この水害は「国の治水政策を大きく転換させるを得なくなった水害であった」とされる。(※1)

【三重県の被害状況】

三重県庁が内務省・山県有朋宛に、災害復旧の上申書を提出した際の被害状況調査表によると、この水害の三重県での死者は44人で、そのうちの19人は度会郡(豊田)が占めており、三重県の各市区の中では犠牲者が最多であったことがわかる。この時、内務省より管轄分の被害額の6分の1として14,484円が災害復旧費として補助されている。(※2)

【家と地と伝承】

今回、地元の古き、山本勇さんに話を聞いた。船で下って友達の家へ遊びに行った話など、宮川での昔の思い出を話していただき、豊田の人々にとって宮川がいかに大切な川なのか、並々ならぬ思い入れを感じた。しかし豊田地区は宮川の恩恵を受ける反面、「水」に悩まされる土地であった。例えば大雨が降れば伏流水から水があふれ、池のように水溜りになってしまう土地があった。特に洪水による被害を減らすために造られた百間/バネは、豊田の人々が「水」と戦ってきたことを物語る。玉城町は、豊田地区に「自然体験、環境学習」を目的として「たまき水辺の学校」という広場を整備している。今回、玉城町の辻村修一町長のお話も伺い、百間/バネを治水歴史遺産として水害の教訓を伝えていくという考えもあることを知った。私たちは、豊田の災害伝承碑を地理院地図に登録していただき、百間/バネとともに地域の歴史と防災について学ぶ場としても、この「たまき水辺の学校」を整備していただくことを提案したい。

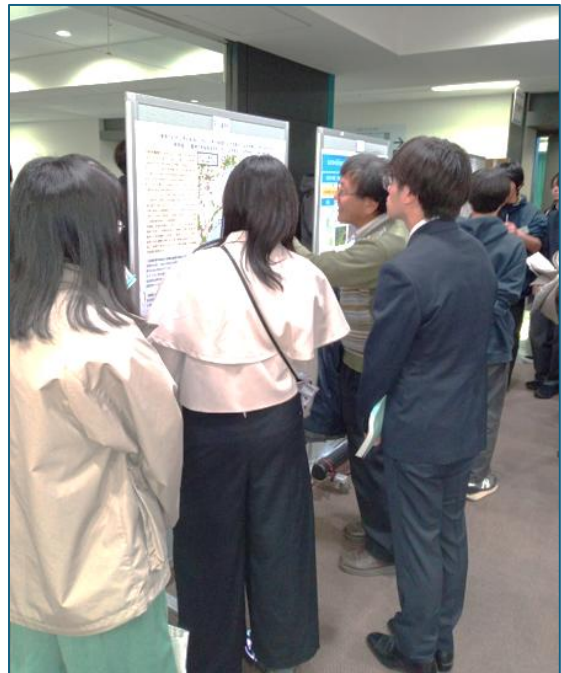
主要参考文献

『玉城町史』(金子延夫) 『三重県・玉城町史』(玉城町) 公文書(明治18年内務省)

図7 「たまき水辺の学校」パンフレットより(百間/バネの位置が濃い赤色はもとより上流である)



〔青山学院大学正門前にて〕



〔ポスター会場の様子〕

【2024年秋季学術大会(南山大学)】

高校生ポスターセッションはオンラインで行われました。松阪高校からは、1作品が採択されましたが、残念ながら入賞は逃しました。

第48回全国高等学校総合文化祭への参加

第48回全国高等学校総合文化祭(岐阜大会)の郷土研究部門に三重県代表として参加しました。

大会は2024年7月31日～8月2日の日程で、岐阜県関ヶ原町を中心に開催され、2日目の発表会の結果、優良賞を受賞しました。また3日目には岐阜県内3コースで巡検が行われ、郡上八幡市への巡検に参加しました。



〔日程3日目の郡上八幡巡検〕

県内・県外巡検調査

長期休みを中心に巡検調査を行っています。毎回、巡検冊子と報告書を作成します。

【度会郡玉城町・大紀町巡検 2021年8月】



〔玉城町・田丸城址にて〕



〔大紀町・錦湾を臨む〕

【度会郡玉城町田丸地区巡検 2022年12月】



〔郊外の農地にて〕



〔田丸旧城下町地区・熊野街道道標〕

【奈良市奈良町巡検 2023年3月】



【奈良女子大学旧本館前にて】



【奈良町商店街巡検】

【東紀州(大紀町・紀北町・尾鷲)巡検 2023年12月】



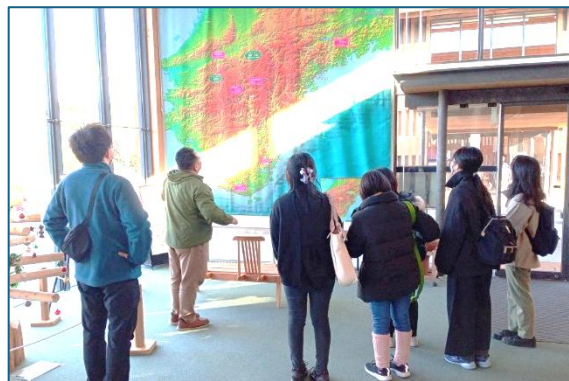
【大紀町錦・金蔵寺で津波伝承碑調査】



【熊野古道・馬越峠】



【熊野古道センターより尾鷲湾を臨む】



【熊野古道センターで説明を受ける】

【伊勢市河崎地区巡検 2024年5月】



〔河崎商人館で説明を受ける〕



〔河崎商人館前にて〕

【伊賀市上野旧城下町巡検 2024年12月】



〔上野高校明治校舎玄関前にて〕



〔伊賀市役所で聞き取り調査〕

発表会への参加

郷土地理部の活動が、中日新聞、夕刊みえ新聞などで報道され、いくつかの団体等からお誘いを受け、研究内容の発表などを行っています。

【玉城町立下外城田小学校での発表会 2024年10月】

全国高等学校総合文化祭の発表内容(昼田地区の水害伝承碑と水制遺構・百間バネの研究)を基に、地元の下外城田小学校5・6年生の皆さんと地元の皆さんに、研究成果を発表しました。小学生向けにクイズなどを交え、内容を工夫しました。また、その後、玉城町長様より感謝状をいただきました。



【発表会の様子2】



【発表会の様子1】



【元気よく手を上げる児童たち】



【玉城町長様より感謝状をいただく】

【三重県県土整備部の皆さんへの発表会 2024年11月】

三重県松阪庁舎において、三重県県土整備部職員の皆さんに、全国高等学校総合文化祭の発表内容(昼田地区の水害伝承碑と水制遺構・百間バネの研究)を基に、研究成果を発表しました。職員の皆さんから様々な質問と、今後の活動に対する励ましを受けました。また県土整備部副部長様から、防災意識の啓発に寄与したとして感謝状をいただきました。

